

## 【視察調査報告書】

委員会名	文教経済委員会
委員名	【委員】 9名 若尾喜美絵委員長、小林秀司副委員長、星野直美委員、梶原幸子委員、鈴木基司委員、安藤修三委員、石井宏和委員、日下部広志委員、荻田米蔵委員
日程	令和4年（2022年）1月24日（月）
視察先	静岡県静岡市（オンライン視察）
視察内容	総合的な不登校対策の推進について
概要	静岡市の不登対策は、どの子も置き去りにしない支援体制として、大学と連携した独自の教員研修や、別室指導の充実、ICTを活用した学習支援、専門家によるアウトリーチ型支援等を実施している。以上のような施策により、成果として、全国的に不登校の児童・生徒数が増加傾向にある中、静岡市では減少に転じるという成果を挙げている。
委員長所感 (意見・課題・本市への反映など)	<p>●若尾喜美絵委員長</p> <p>静岡市の不登校対策では、昔ながらの型にはめ、例外を認めないというような生徒指導のあり方からの脱却、個に応じた適切な対応、中学校卒業後も切れ目なく社会資源とつながっていくという3つの視点を持ちながら、総合的、専門的視点から取組が進められています。</p> <p>大学との連携で開発した不登校対応研修プログラムがほぼ全ての教職員に対し実施され、教職員全体で不登校への対応能力を向上させていくことを目指し取組が行われています。</p> <p>また、子ども達の状況に合わせ、別室登校では個別カリキュラムの充実による個に応じた対応、適応指導教室ではICT教材の活用による指導の充実、また、家から出られない子どもには、子どもや親の孤立感を解消し、支援につなげる訪問教育相談員事業を実施しており、スクールソーシャルワーカーの機能強化に向けた独自の取組など、多岐に渡る先進的な施策は大変参考になりました。</p> <p>また、不登校について、子ども若者相談センターにも相談できる体制がとられており、中学校卒業後も切れ目なく支援につながれるような配慮や24時間体制による子ども相談事業の実施など、福祉との連携も図られ、総合的な視点から支援体制をつくることはとても大切だと感じました。</p> <p>ICT教育の推進では、静岡市GIGAポータルサイトを開設し、教員だれもが、ICTを活用した授業事例や教材データにアクセスできるようになっています。教員の指導力向上や個に応じた適切な指導の充実を目指し、情報共有や研究が組織的に進められている点は素晴らしく、八王子でもぜひ取組が進められたらと思います。全ての子ども達に余すことなく支援していくという熱い思いが、先進的取組のエネルギーと成果につながっていることを強く実感しました。</p>

委員所感  
(意見・課題・本市  
への反映など)

●小林秀司副委員長

今視察では、静岡市が「総合的な不登校対策」として、課題に対して改善の目標の設定をして取り組んでいる。「不登校対策の3つ視点」を定め、それに基づき施策を実施している。

全職員への研修プログラム、不登校生徒の現状把握など、アンケート結果や指標から数値化し現状の把握や課題の変化に対して関わる人が認識しやすいシステムであると感じました。

施策を実施するには「わかりやすく」「理解しやすく」し速やかに対応できることが大切感じました。本市においても方向性や考え方の統一性をもって対応すべきと感じました。

●星野直美委員

「静岡市教育相談員」について

不登校の問題を解決するために、本人や家族との生活環境を相談、児童・生徒が通学しやすいような支援学級の準備をSSWが担っている。しかし、「SSWではうまくいかない」「もうSSWには来てほしくない」というニーズにこたえるため、市が独自で「訪問教育相談員」の設置をしている。この施策は、これまで役割分担をしていた仕事を相談員が担っている。問題を抱える児童・生徒に早く対応ができることがメリットであり、効果が表れ始めている。退職した校長先生が相談員となり、生徒と適切な関係を築いている。中でも、不登校生徒が受検に合格し、その知らせを高校の門で聞き、生徒を送り出した話には感動した。八王子市での不登校児童・生徒になる理由が家庭に起因していることが増加しており、今後の対応が急務であり、地域にあった取組を検討する必要もあると感じている。静岡市の今後の取組にも注目していきたい。

「静岡市のICTを活用した教育」について

不登校の児童・生徒に対してもICTを活用した教育が有効であると考えられており、相談員が最低5回訪問してきめ細かい対応している。また、市のポータルサイトでは地元企業や大学との連携で充実した内容になっている。ロート製薬による目を保護する啓蒙のサイトは楽しく学ぶこともできる。まだギガスクールも始まったばかりであるが、全ての児童・生徒の教育が止まらないために何ができるか、勉強を続けていきたいと改めて感じることできた視察であった。

●梶原幸子委員

SC・SSWのみならず、訪問教育相談員の存在は、児童生徒・保護者の相談相手となることにより孤立感を解消できる、という部分に大きな意義があると感じた。また、サポートルームを配置し、児童生徒の状態を事細かく報告する取り組みは、学校に来られた来られない、という部分にのみ目が行きがちな部分を、その進みはゆっくりであっても確実に進んでいっているという目に見える指針を表すことで、特に、保護者に良い影響をもたらすものとする。一朝一夕にはできない取り組みであることは理解するが、八王子市でも取り入れたい施策であると考えた。

●鈴木基司委員

不登校対策では大きく3つの視点を定め、目標を細分化することで、一人一人に合った支援の取り組みを決め、全方位からのアプローチを可能にし、フィードバックするきめ細かな対策を推進するとともに、きめ細かな不登校対応研修プロ

グラムを活用した取り組みは、大いに参考にしなければならない取り組みであると感じた。

●安藤修三委員

不登校児童生徒に対するアウトリーチ支援を拡充するなど、不登校に起因する諸問題を解決していく市役所全体としての熱意を感じた。また、対応研修プログラムは非常に体系的に設計されており、一人ひとりの児童生徒にきめ細やかに対応していくために有効だと感じた。サポートルームに関しては児童生徒の居場所として、利用実績等からも有効だと感じられた。八王子市においても今回視察をさせていただいた事例を参考に増加する不登校児童生徒に対する施策を講じていきたい。

●石井宏和委員

詳細な資料と丁寧な説明を頂き感謝しています。特に、別室登校の支援、家庭訪問支援の取組が貴重だと感じ、その実情と成果が10段階の評価指標の変化などからも窺えました。質疑応答で、訪問教育相談員は、校長先生だった方など経験豊富な退職者で、実際に一緒に登校したり、志望校を見学に行ったりしていると聞きし、感銘を受けました。

●日下部広志委員

静岡市で実施されている不登校生徒・児童への「アウトリーチ支援体制」について学ばせて頂きました。八王子市では、SSWの増員を進めていますが、静岡市では教員OBの方などを中心とした「訪問教育相談員事業」を積極的に進められていること。その利点、ねらい等をご教示頂き、非常に有意義な行政視察となりました。本市での支援充実に活かしていきたいと思えます。

●荻田米蔵委員

静岡市では、児童生徒を学校方針や校則の型にはめず、個に対応した適切な対応を目指すとした「今後の取り組みの方向性」を打ち出した。

具体的には「不登校対応研修プログラム」「別室の充実」などのほか、特に「訪問教育相談員」を学校に配置し、家にいる児童生徒へアプローチしている点は驚き感動した。

家庭訪問や面談を通して多くの児童生徒に改善が見られたという。本市でも検討すべきではないか。

視察の様子

